

平成29年9月27日
四国電力株式会社

伊方発電所3号機 第14回定期検査の実施について

伊方発電所3号機(加圧水型軽水炉、定格電気出力89万キロワット)は、10月3日から運転を停止し、第14回定期検査を以下のとおり実施する予定です。

1. 主なスケジュール

定期検査開始日 : 平成29年10月 3日
送電開始日(目途) : 平成30年 1月22日
定期検査終了日(目途) : 平成30年 2月20日

2. 施設定期検査および定期事業者検査を実施する主な設備

原子炉本体
核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設
原子炉冷却系統施設
計測制御系統施設
放射性廃棄物の廃棄施設
放射線管理施設
原子炉格納施設
非常用電源設備
蒸気タービン本体および蒸気タービンの附属設備

3. 燃料集合体の取替

燃料集合体全数157体(MOX燃料16体含む)のうち、50体のウラン燃料を取り替える予定です。

ウラン・プルトニウム混合酸化物燃料

4. 定期検査中に実施する主要な工事

原子炉容器上部ふた取替工事
非常用ディーゼル発電機火山灰対策工事

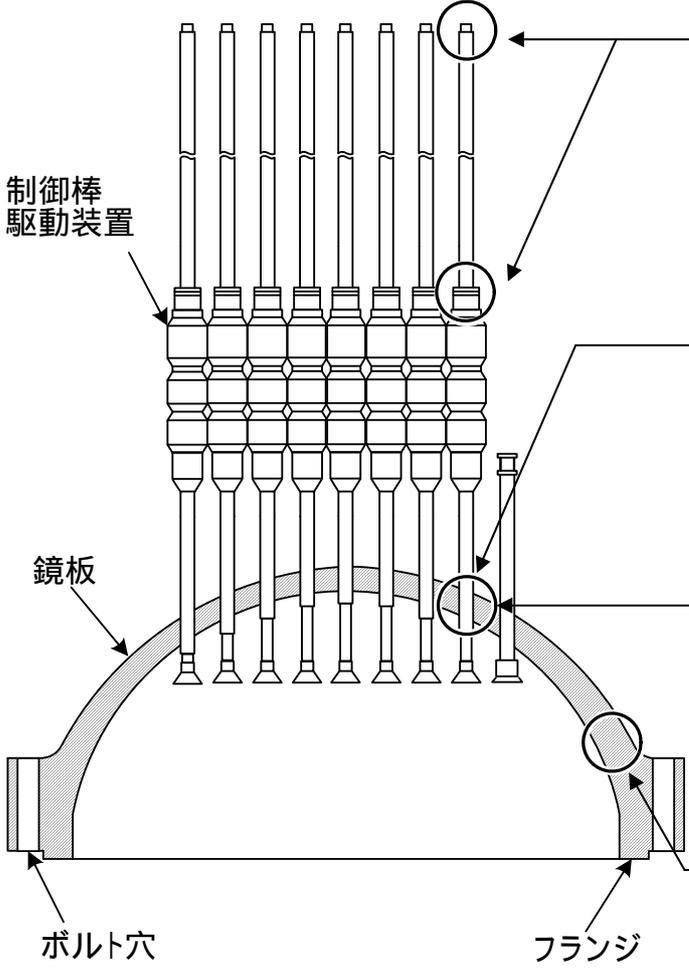
以上

(別紙) 定期検査中に実施する主要な工事の概要

定期検査中に実施する主要な工事の概要

1. 原子炉容器上部ふた取替工事

国内外のプラントにおける原子炉容器上部ふた管台の損傷事例を踏まえ、予防保全の観点から管台材料等を改良した上部ふたに取り替えることで、信頼性の向上を図ります。

上部ふた概略図	主な改良点
 <p>制御棒 駆動装置</p> <p>鏡板</p> <p>ボルト穴</p> <p>フランジ</p>	<p>国内外で損傷事例がある制御棒駆動装置のシール溶接部(ねじ込み構造)を全廃し、突合せ溶接構造とする。</p>
	<p>管台の材料および溶接部の材料を耐食性に優れたものに変更する。 [600系ニッケル基合金 690系ニッケル基合金]</p>
	<p>管台部の溶接量を少なくして、残留応力を低減する。</p>
	<p>鏡板とフランジを一体鍛造で製作し、溶接部をなくす構造とする。</p>

2. 非常用ディーゼル発電機火山灰対策工事

伊方発電所3号機の火山灰対策については、現行の基準を十分満足していますが、原子力規制委員会において、これまでの想定より非常に高い火山灰濃度環境下においても非常用電源設備の機能維持が必要との検討結果が取り纏められたことから、当社は、伊方発電所の更なる安全性・信頼性向上に資するため、非常用電源設備である非常用ディーゼル発電機の吸気消音器に着脱可能な火山灰フィルタ（カートリッジ式フィルタ）を設置する火山灰対策工事を実施することとしました。

本工事により、非常用ディーゼル発電機は、非常に高い火山灰濃度環境下においても、確実に機能維持ができることとなります。

非常用ディーゼル発電機は、運転のために空気（外気）を取り込む必要があり、吸気系統を設けている。吸気系統の端部には消音器を設置している。

